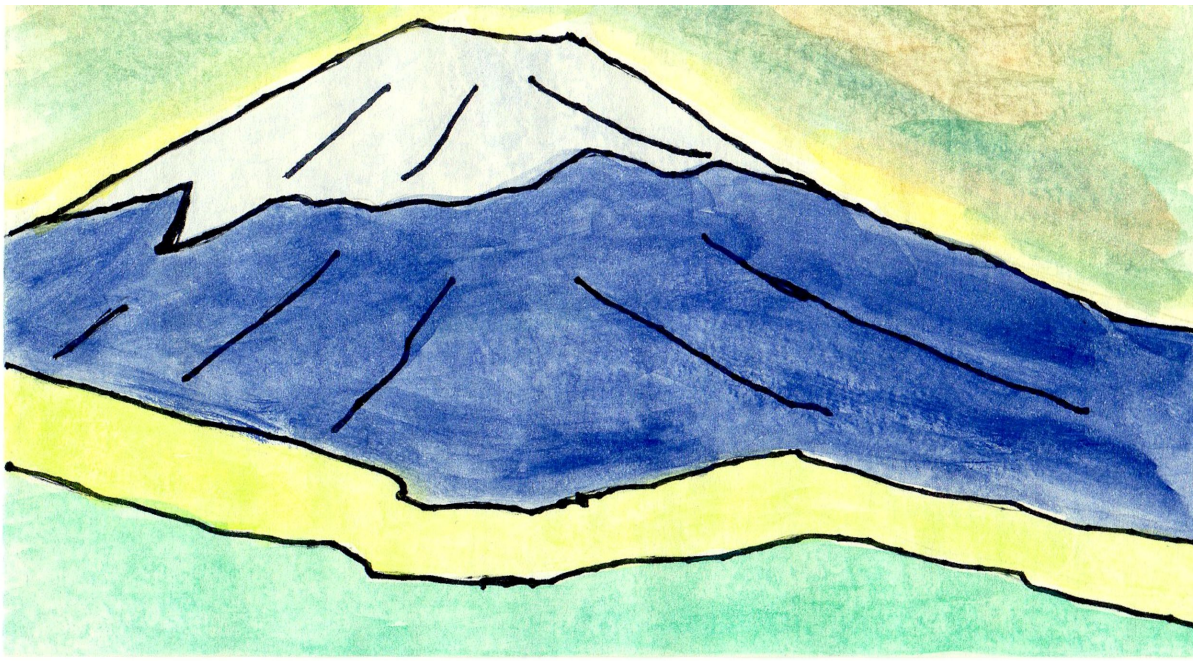
てんとさいと



北岳　　画：張替　清治

草加山の会　No.233

忘年山行

黒斑山

目　　次

●コール---------- 小林　いつ子---------- 1
●平成27(2015)年12月～平成28(2016)年2月山行実績------- リーダー部・機関紙部---------- 2
●心に残る山行(北アルプス裏銀座縦走:ブヨに刺されて)　森　花江---------- 4
●新人紹介---------- 出口　栄子----------5
●還暦山行は青春の北穂高岳---------- 石井 文子･尾崎 あや子･園木 毅---------6
●金岱山---------- 張替　清冶----------9
●八ヶ岳 赤岳･横岳･硫黄岳---------- 鎌形　瑞枝---------- 10
●丁須の頭(裏妙義)---------- 宮地　敬介---------- 11
●乾徳山---------- 新島　和子---------- 12
●桜山---------- 平野　祥子---------- 13
●日光・半月山---------- 阿部　芳夫---------- 14
●丹沢 塔ノ岳・鍋割山　ヤビツ峠から大倉へ---------- 山口　裕史---------- 15
●大野山(忘年山行)---------- 平野　祥子---------- 17
●宝生山(氷室山)---------- 芳野　光夫---------- 18
●富山---------- 兼堀　善和---------- 19
●富士山を追いかけて(高川山･石老山)---------- 森　律子---------- 20
●愛鷹山---------- 山口　裕史---------- 21
●羽賀場山---------- 芳野　光夫---------- 22
●パノラマ台(精進湖)---------- 畑野　順二---------- 23
●景信山～高尾山---------- 井口　宮子---------- 24
●南アルプス「鳳凰三山」冬山---------- 松浦　剛---------- 25
●鎌倉アルプス 天園コース---------- 出口　栄子---------- 27
●石割山（山梨県山中湖）でダイヤモンド富士--------- 宋　寅虎---------- 28
●愛宕山･難台山･吾国山---------- 嶋田　博久---------- 29
●浅草七福神と史跡巡りの江戸散歩---------- 松浦 剛･小林 いつ子---------- 31
●南八ヶ岳編笠山～西岳周回---------- 山口　裕史---------- 34
●東照宮から女峰山　久しぶりのラッセル---------- 山口　裕史---------- 35
●黒斑山雪山入門---------- 山口　裕史---------- 37
●中山道歩き№７（群馬八幡駅～磯部駅）---------- 兼堀 恵美子----------40
●その季節に美味しい山がある---------- 森　律子---------- 41
●編集後記---------- 宮地　敬介---------- 42

コール！

小林　いつ子

去年の 10 月に 40 周年を迎えた草加山の会は、ホームページのお陰もあり、新会員が増え続け新風を吹き込んでくれている。始まったばかりの平成 28 年も続々と入会希望者が来てくれて、平均年齢が若返るのは勿論のこと、皆さんの積極的な発言に驚かされる。
新風ではなく、春一番の予感！！！

私が入会した時、機関誌テントサイトは手書きであった。
すぐにワープロ➡ コンピューターとプリンターとなり、情報だけならスマホ！
たった 20 年のことである。人だって変わって当たり前なのだ。

20 年経っても変わらない事もある。
自分の足で登り下りる。装備などの便利・品質の向上はあったとしてもここは変わらない。夏は暑いし、冬は寒い。でも、もう２０年経つと富士山では透明パイプの中を登るケーブルカーで優雅にお茶しながら山頂に！山岳道路・鉄道の充実で南北中央アルプスの頂は観光エリアで誰でも行ける！なんて時代が来てしまうかも？もっとも黒部―室堂辺りはすでに現実である。自力での登り下りの道のりが少しずつ減っていくのは仕方ないようだ。
歳を重ねてくるととても有難いことでもある。
そして、それでも山にこだわる人は多分それを横目に見ながら自力で登り、下りる！
以前、私はとても横着な事を思いついた。山頂と山頂をつなぐ吊り橋である。つまり谷に降りず楽をしちゃう！なんてことを。その時はくたびれ果てて、目的の山頂がやけに遠くに見えたものだ。

今、私は新風を恐れず、その風に乗りたいと思う。もう少しの間、吊り橋に頼らずに登山を楽しみたい。

平成27(2015)年12月～平成28(2016)年2月山行実績

リーダー部・機関紙部

山行	日　程	山 岳 名	リーダー	参　　加　　者
会	12/2	半月山（日光）	阿部	兼堀(恵)、澁谷、鈴木(里)、下川、鎌形、田村、石井(文)、小野寺、木原、新庄
個	12/5	塔ノ岳	山口(裕)	小林(い)、森(律)
会	12/6	大野山	兼堀(善)	平野、畑野(仁)、澁谷、石井(美)、石井(文)、小野寺、阿部、出口、和田、新島、尾崎、浅井(昭)、浅井(祐)、大木、森(花)、江崎、山口(敏)、上原、兼堀(恵)、木原、染谷、宮地、大畑、中川、松浦、松井、井口、八並、関口、張替、鎌形、鈴木(廣)
個	12/13	石老山	森(律)	新島、兼堀(善)
個	12/16	宝生山	芳野	山崎(寧)、澁谷、小野寺
個	12/23	富山	兼堀(善)	兼堀(恵)、澁谷、木原、森(律)、大畑、畑野(仁)、金野、杉山、松井
リ	12/26　～27	安達太良山	浅井(昭)	石井(美)、石井(文)、小野寺、森(律)、鎌形、新島、小林(い)、和田、尾崎、畑野(順)
個	12/27	愛鷹山	山口(裕)	山口(敏)、嶋田
個	1/3	高川山	小野寺	石井(美)、石井(文)、畑野(仁)、森(律)、染谷
個	1/4	羽賀場山	芳野	鈴木(廣)、澁谷
個	1/9	精進湖ﾊﾟﾉﾗﾏ台	畑野(順)	畑野(仁)
リ	1/9～10	鳳凰山	石井(美)	松浦、鈴木(勝)、山口(裕)
個	1/10	景信山	井口	小林(い)
会	1/15	鎌倉ｱﾙﾌﾟｽ	上原	黒澤、兼堀(恵)、中島、澁谷、石井(文)、大畑、平野、新庄、鈴木(里)、畑野(仁)、山口(敏)、中川、山崎(正)、江崎、金野、出口、小野寺
個	1/16	石割山	山口(裕)	畑野(順)、宋、森(律)、兼堀(善)、柳瀬(入会希望)
会	1/20	愛宕山～吾国山	新庄	小野寺、嶋田、黒澤、澁谷、兼堀(恵)、小宮、石井(文)、芳野、木原、阿部、八並、山崎(正)
個	1/24	浅草七福神巡り	松浦	畑野(仁)、石井(文)、中島、小野寺、上原、黒澤、小林(い)、染谷、松田、井口、金野、平野、中川、兼堀(善)、兼堀(恵)、木原、杉山

個	1/31	編笠山(八ヶ岳)	山口(裕)	会員外2
個	2/3	菅生沼	芳野	澁谷、兼堀(恵)
リ	2/6	社山	松浦	畑野(順)、染谷、山本、松田、鎌形
リ	2/6～7	上州武尊山	石井(美)	兼堀(善)、森(律)、新島、鈴木(勝)、宮地
個	2/6～7	女峰山	山口(裕)	会員外1
会	2/11	高川山	石井(文)	森(律)、澁谷、兼堀(善)、兼堀(恵)、平野、新島、出口、小林(い)、柳瀬、森(花)、芳野、関口、江崎
個	2/11	黒斑山	山口(裕)	嶋田、宋、山﨑(正)、山本、山崎(寧)、山口(敏)、小野寺
個	2/21	中山道No.7	石井(美)	石井(文)、畑野、平野、阿部、杉山、鈴木(廣)、大畑、鈴木(里)、森(花)、木原、鎌形、中川、中島、黒澤、上原、兼堀(善)、兼堀(恵)
個	2/21	幕山	井口	森(律)
個	2/27	三ツ峠山	畑野(順)	畑野(仁)、山﨑(正)、出口

心 に 残 る 山 行

北アルプス裏銀座縦走

ブヨに刺されて(涙)

森　花江

平成２６．７．２４～２７　小雨に煙る高瀬ダムを出発、ブナ立尾根でブヨに刺されてしまった。

気がついたのは小屋の夕食時、両目はみるみる腫れてお化顔になった。
翌日、雪渓で冷やし続けた。(その間メンバーは烏帽子岳登山へ) １／３だけ開いた目でなんとか歩けそうと、不安ながら、野口五郎、水晶、鷲羽と歩いた。
快晴で、お花畑、雪渓、まわりの山々に感動しながら１３時程歩き三俣荘に着いた。
だが、ここでドクターストップがかかり、下山することとなってしまった。

メンバーに申し訳ない気持ちで落ち込んでいる私に杉山さんが「この雨じゃぁ槍へは行けない。昨日素晴らしいロケーションの中歩けたのだから･･･」と励ましてくれました。
泣く泣く雨の中を下山、でも三俣蓮華附近でライチョウの親子、双六ではクロユリの群落と心に残る、思い出深い山行でした。

新人紹介

【平成２７年１２月入会　　出口栄子】
〔昭和３５年生〕
〔東京都出身　結婚して八潮市へ〕
〔子供２人　　男１、女１〕
“届かない場所がまだ遠くにある”　歌詞の一節です。
三年前　一生に一度は富士山、と思い登りました。旅行は好きでよく出かけましたが、山は全然の私でした。この年齢になり、ふとテレビ等で日本アルプスの稜線歩きを見て
「いいなァ～。」　と考えたのが入会動機です。
これから色々覚えて　皆さんと楽しい登山をしていけたらと願っております。
子供には、平地と下りはまずまずだが上りが遅い（やっぱり体重のせい？）と言われています。

お願い：原稿（電子文）のページ設定

紙又は電子文で提出願います。
紙原稿の場合は、編集担当者が電子化します。
電子文で提出する場合は、機関誌としての体裁を整えるため、ページ余白、書体、文字・写真の大きさなどを統一します。

標準書式　（ソフトはワード使用）
Ａ４版 余白設定＝上下左右　２５ｍｍ　　一行文字数＝４０文字　ページ行数＝４０行 文字設定＝１１ポイント　ＭＳ明朝体 タイトル＝自由書式 写真の大きさ＝事前に３２０×３２０ピクセルに縮小する。 又は、元写真を貼り付けた後、圧縮する。 写真説明文字＝埋込みを推奨

還暦山行は青春の北穂高岳

★日　　程　　平成２７年１０月３日～５日

★メンバー　　Ｌ園木、石井文、尾崎、関口、八並、平野、大門

3 日　バスターミナル（11：30)～河童橋～徳澤園～横尾（15：40）テント泊

4 日　横尾（7：05)～涸沢（10：15～40)～北穂高岳（14：55）北穂高小屋泊

5 日　北穂高小屋（7：15)～涸沢（10：10～40)～横尾（13：10～50)～バスターミナル（16：40）

還暦登山の感想

記：石井文子

横尾ではテント泊の為、シュラフ、シュラフカバー、マット、シート、食器持参、北穂小屋は3,106ｍ頂上直下の山小屋の為、防寒着雨具共、厚手の物を用意しました。

２００５年７月に家族で北穂に登った時は、体力不足で高山病になりながら登ったので、今回は園木さんの「北穂の小屋でワインで乾杯」と、言う希望を叶えるため迷惑にならないよう、ジムで筋トレをし、体力つくりをして還暦山行に臨みました。

３日間とも晴天で、夜には沢山の星が瞬き、雷鳥２羽が出迎え、北穂山頂からは、３６０度山々がみられ、槍はもちろん、白馬にある唐松岳や、妙高火打、富士山も眺めることが出来、小屋で飲んだ赤ワインが美味しく、参加してくださった皆さんの沢山の差し入れもあり、涸沢のおでんも美味しく、楽しく過ごす事が出来ました。

しかし北穂小屋から上高地までの下山では、先頭の八並さんについていくのが精いっぱいで、まだまだ体力不足を実感した還暦山行でした。

園木さんには、小屋の手配、食料の買い出し、車の運転とお世話になり有難うございました。

スタートは河童橋

涸沢の紅葉は最高です

還暦山行（上高地～横尾～涸沢～北穂高岳）に行って来ました。

記：尾崎あや子

横尾でのテント泊では、夜空の星の輝きと多さに感動しました。

翌朝、本谷橋から急こう配の岩場が続き、山の中の登山道を抜けると一気に視界が開け、紅葉真っただ中の素晴らしい景色❣そんな景色を見ながら涸沢に到着。

涸沢ヒュッテのテラスに腰かけ涸沢カールや穂高の山々は絵葉書の様に青空に映え美しい風景です。美味しいおでんをいただきいざ北穂高岳へ。

登るにつれテント場が徐々に米粒位に見え、足場は急な登り坂が続く岩場で三点確保、長いはしご、クサリで気の抜けない登りが続きます。

ようやく北穂高岳山頂到着、360°の展望。徒歩３０歩程下れば北穂高岳小屋です。テラスからの雄大な山々を仰ぎながらの山談義。日没頃に再度山頂行き遠くの山々の美しいシュルエット

夕食にはリーダー念願のワインで乾杯。一緒に参加して下さった御姉様達に美味しいワイン御馳走して頂きました。有難うございました。

翌朝には一気に横尾まで下山して、張って置いたテントを撤収して、重い荷物を背負い上高地までの３時間は長かったです。（今回の山行で一番きつかったです）

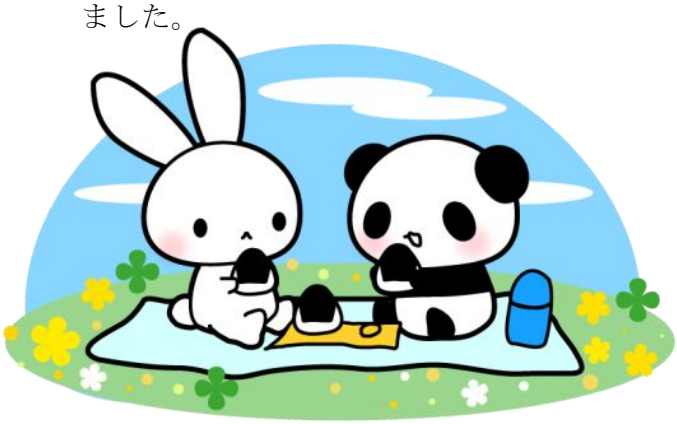
３日間晴天に恵まれ、憧れの紅葉の涸沢カールが望むことが出来。充実した山行でした。

リーダーには重い荷物を背負って頂いたり色々お世話になりました。

又参加して頂いた皆さんには美味しい差し入れ有難うございました。お陰様で無事に還暦山行が出来ました。これからも山の会の皆さんと楽しい山行が出来ますように！

北穂高岳山頂、槍ヶ岳が迎えてくれました。

40 年の時空を超えて念願がかないました。



記：園木　毅

同行の皆様、還暦山行の北穂高岳にお付き合いいただきありがとうございました。
北穂高小屋で念願のワインで乾杯することが出来ました。感謝いたします。

学生時代涸沢にテントを張り毎年６日間位は涸沢生活をしていました。もちろん、登るのは穂高の岩場。ルートによっては登攀終了点が北穂高岳、小屋に行くとテラスで紳士、淑女の方々がワインを片手に団欒・・・

学生の身分では小屋泊まりもワインも夢のまた夢でした。４０年の時空を超えて念願がかないました。

涸沢では仲間たちとたくさん山のこと語りました。

私に山のいろはを教えてくれた怖くて優しい先輩の何人かの方は山から戻りませんでした。とても悲しい記憶です。

経験積んで技術磨いてもなお山は厳しい世界です。

今回の下山でも別のパーティーが滑落騒ぎ後３メートル長く落ちていたら・・・ゾーとしました。

１安全２楽しい３美味しいが私の登山モットー

夕食後山頂に行きました。アーベントロート、私の大好きな光景です。

お世話になりました北穂高小屋。
皆様ワイン飲んで楽しいひと時をありがとうございました。

金岱山(1375M)

記：張替　清治

日付：平成 27 年 11 月 22 日
天候：曇り
メンバー：(L)張替，新庄，山口(敏)，小林(い)

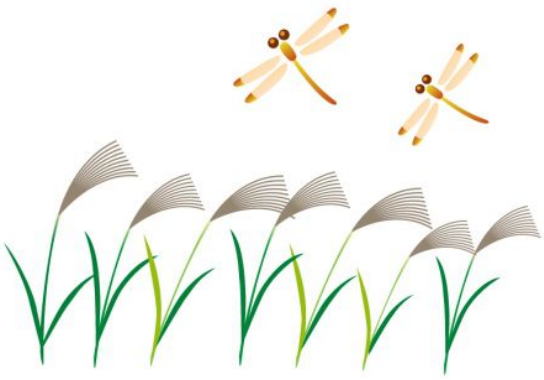
以前私が登った時には、日原鍾乳洞の駐車場を前にして向かい側に登山口がありましたが「大地震」により岩が崩落し通行禁止の為、以前の道は通れませんでした。
事前に新庄さんがネットで調べてくれていた為、その情報によるコースで、登山口を目指し進むことにしました。

奥多摩駅に着くと大勢の人、人、バス停もすでに大行列でした。行先のバスは川苔経由の為、川苔を過ぎると私達４人の他、２～３人だけで貸切り状態でした。

天候はすでに霧雨、小雨状態なので、各自バス乗車中に雨具の支度をはじめました。

コース：一石山→水ナラの巨木→人形山→金岱山→水ナラの巨木→一石山→一石山神社のコーで歩程。

以前のコースとは異なり、天候も悪く最悪でした。一石山神社の横を抜け「一石山」へと向かい約１時間で「一石山」山頂、それから 30 分程で「水ナラの巨木」、それから 30 分程で「人形山」、それから 30 分程で「金岱山」山頂です。
帰りは「人形山」を除き「金岱山」→「水ナラの巨木」→「一石山」→「一石山神社」へという道順で下山しました。
霧が濃く
地図をひ
ろげ磁石を使う山行でした。
登山口のはじめは急登(１時間程度)、次はダラダラ続く緩やかな登りという状態で、一歩一歩「牛歩」の如く登りました。



天候には恵まれなかったものの落葉樹のフカフカの山道、紅葉も良かったと思います。「静寂の山」奥多摩。

人に会ったのは２人だけです。残念なのは「水ナラの巨木」が折れていました。

同行して下さった会員の皆様大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

南越谷に到着後打ち上げをし解散しました。

八ヶ岳　赤岳・横岳・硫黄岳

記：鎌形　瑞枝

▲日　　程　2015 年 11 月 21 日～22 日

▲メンバー　　L．浅井(昭)、宮地、森(花)、鈴木(廣)、小野寺、鈴木(勝)、鎌形

▲コ　ー　ス

11/21(土)　松原団地⇒首都高⇒中央道⇒小淵沢 IC⇒美濃戸口⇒赤岳山荘(P)10：15
－美濃戸山荘 10：30－－北沢コース－－赤岳鉱泉(泊)12：40

11/22(日)　赤岳鉱泉 5：10－－行者小屋 5：45－-赤岳 7：55－地蔵の頭 8：35
横岳 10：15－-硫黄岳山荘 10：50－-硫黄岳山頂 11：40－赤岩の頭
12：10－-赤岳鉱泉 13：00－－北沢コース－－赤岳山荘 15：10
鹿の湯(風呂)－－小淵沢 IC－－中央道－－松原団地 22：25

本年度最後の 3 連休、事故渋滞に遭遇したが、美濃戸では最奥まで車で入る事が出来、若干の遅れで、歩き出せました。11 月も半ばを過ぎているのに暖かく、風もなく途中で仰ぎ見た阿弥陀岳は全く雪の気配がありませんでした。多くの橋を渡りコースタイムで赤岳鉱泉に着きました。飲み出すには早いので、下山コースを 1．5 時間程散策しました。

翌日は、星空がきれいな中、予定より 1 時間早めて小屋を出ました。風のない樹林帯ではじきに上着を脱ぐ位で、水たまりは凍らず、シモバシラも上部まで ありませんでした。

文三郎尾根の長い長い階段を越え、急登の岩場を上がると山頂でした。途中、何日か前に降った雪が真っ白でほんの少し見えました。富士山、御嶽、乗鞍岳、金峰山、南アルプス、中央アルプスと素晴らしい展望です。富士山の上に笠雲がかかり、天気の後退を知らせていました。さすがに山頂付近は風があり、ピッケルで支えながら歩いていました。展望荘、横岳、こまくさの群生地、硫黄岳へ。途中のシャクナゲはキバナしゃくなげの自生地でした。いつ見ても硫黄岳の爆裂火口は迫力がありますね！！

赤岩の頭を越え、樹林帯に入り、風のなさにほっとしました。前日の散策地点に戻り、赤岳鉱泉小屋に予定通り到着。広場では、アイスクライミング用の人工壁、アイスキャンディというのがあり、若者たちが挑戦していました。暖かくて、氷の壁にできないとの事。

赤岳山荘にかなり近い地点で、黒いカモシカに遭遇した。写真を撮ろうと近寄っても動じない感じで草を食んでいました。コースタイムで山荘に到着。近くの鹿の湯で温泉に浸かり、連休の渋滞の中帰路に着きました。メンバーの皆様、ありがとうございました。

丁須の頭(裏妙義)

記：宮地　敬介

■ 日　　程　平成 27 年 11 月 29 日
■ 場　　所　裏妙義(丁須の頭)（1057m)群馬県富岡市妙義町
■ メンバー　L 山崎寧子，浅井祐子，森花江，宮地敬介
■ 歩　　程　約 3.5h（予定は 6.5h）

国民宿舎 8:30･･･9:00 木戸･･･10:00 御岳分岐･･･10:20 鎖場(登頂断念)･･･11:30 国民宿舎･･･11:50 妙義神社

１１月の最終週暖冬とは言われるものの、２日前に訪れた北国からの常連客の陰で、それまで季節外の温かさが一転、晩秋を感じさせ始めた頃、裏妙義の丁須の頭を目指すこととした。

５時過ぎに草加を出発、外環を通り関越から上信越道へ。松井田･妙義 IC で一般道へ、ほどなく裏妙義の国民宿舎へ到着。

登山道は国民宿舎の正面に標識があり、緩やかな登山道をゆっくり進む。まず目に飛び込んでくるのは見事に色づいた紅葉で、空の青と相まって艶やかな姿を見せてくれていた。

この時期特有のことであるが、落葉が登山道を埋め尽くし歩くたびシャリシャリと小気味よい。でも落ち葉に隠された高低差や石、岩が頻繁に足元を危うくさせるので油断は禁物。岩間を抜けたり、鎖場を登ったりと楽しい岩場を抜けると８合目付近で正面に白無垢にお色直しをした浅間山が姿を現した。勇壮で美しい姿に見とれてしまいそうになる。

これから最後の鎖場まで来たところで、足場となる岩が凍結していた。恐らく２日前に降った雪が解け、朝の冷込みで凍結したものと思われる。まわり道を探したが、どこも凍結しリスクが高く登頂を断念し下山することとした。時間が早かったため、妙義神社へ。妙義神社は意外と大きく装飾がみごとで、江戸時代から避雷祈願という名目での幕府の保護が厚かった様である。妙義神社の御神体は白雲山、祭神は日本武尊、豊受大神、菅原道真、花山院長親卿この長親卿の出家号が子晋明魏であり、妙義は明魏に由来するものと言われている。

このほかその山の形が明々巍々であることから明巍となり妙義となったとう説もあるが明魏や明巍よりは妙義の方が合っている気がする。

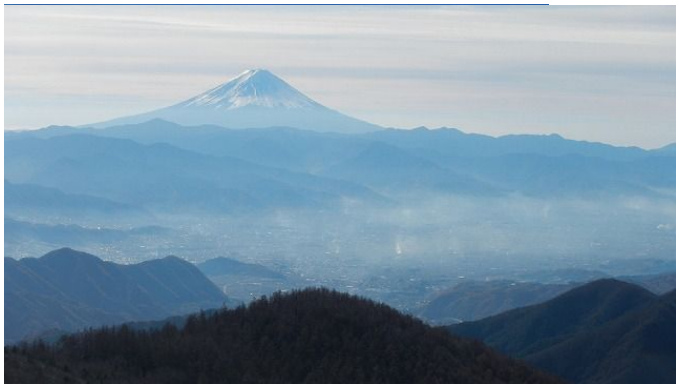
今回の山行を企画頂いた山崎寧子さん、技術指導を頂いた浅井祐子さん、楽しい話で盛り上げて頂いた森花江さん。ありがとうございました。またご一緒させてください。

乾徳山（2031m）

記：新島　和子

★山行日：2015 年 11 月 29 日（日）
★メンバー：L 井口・山口（裕）・森（律）・兼堀（善）・新島
★コース：駐車場 7：45～乾徳山登山口（オソバ沢ルート）8：13～錦晶水 9：40～国師ケ原～高原ヒュッテ～月見岩 10：30～扇平～髭剃岩 11：12～乾徳山山頂 11：35～髭剃岩～扇平 12：56～月見岩 13：04～高原ヒュッテ～国師ケ原 13：37～乾徳山登山口 14：36

乾徳山は日本二百名山に数えられ山梨北部に位置する標高 2031mの岩山。
駐車場はすでに満車。乾徳神社の先にちょっとした空き地があったので車をとめて登山口（オソバ沢ルート）へ。
登山口から錦晶水を経て一時間半ほど歩くと開けて高原が現れ、振り返ると勝沼方面が見渡せる。高原ヒュッテで休憩。今は閉鎖中ですが 2014 年に立て替え、ストーブもあり、とてもきれいな小屋です。



月見岩からは富士山、南アルプスの展望。富士山は暖冬で雪が少ない・・
扇平（おうびっぴら）、髭剃岩（隙間から南アルプスが望める展望ポイント）、そしていよいよ乾徳山山頂へ。頂上直下にそそり立つ高さ 20mのスリリングな岩場へ。
　7 年ほど前に一度この岩場に挑戦したことがあり、その時は軽々と登った記憶あり。

しかし、今回は体を持ち上げるのが大変！体が重い・・（痩せよ・・）そして山頂へ。
360℃見渡せる、甲武信岳、金峰山（五丈岩）、気持ちの良いところでランチタイム♪
そして、下山。今年は暖かい。きれいな青空と絶景のなか、登ってきたルートを無事下山。楽しかった～
リーダー宮子さん、車を出し運転をしていただいた兼堀さん、そして参加の皆さま、ありがとうございました。

桜　　山

記：平野　祥子

■日　　程　：2015.11.29
■メンバー：L 園木、八並、平野、他１名
■コ　ース　：草加＝本庄駅＝八塩温泉バス停着 9:30…10:25 いっぷく平 10:30…
11:45 雲尾 11:55…12:15 おまつり広場(昼食)13:25…13:40 桜山 14:00…
14:20 車道横断 14:40…15:50 丸金バス停着＝本庄駅

朝から天気が良く山歩き日和です。本庄駅からバスに乗りかえ「八塩温泉入口」で下車し、神流川を渡り登山口にむかう。民家の庭先にも冬桜が咲いている。

八塩温泉から桜山へのハイキングコースの案内板があって登山口から山道に入る。いっぷく平でちょっと休憩しすぐ東屋（見晴台）でした。展望が開けて方位盤が置かれ関東平野～筑波山も見えました。 歩きやすい尾根道を歩いているとこの季節にしては暖かな日が続いているせいでしょうか…季節はずれの山ツツジが目を引く。

「桜山公園ハイキング道」の道標があって植林された杉林の木漏れ日のとても静かなハイキング道を進む。視界が開けて車道に出ると日当たりの良いりんご畑に到着しました。

車道を 10 分ほど行くと桜山森林公園駐車場に到着。駐車場は桜満開、車もいっぱい。広場は冬桜まつりで出店が並び。お土産にしいたけ･みそ･落花生等を購入。桜山公園はびっくりするほど広い日本庭園でした。残念ながら紅葉と冬桜の競演とはいかなかったけれど、サザンカや椿の花色と淡いピンク色の冬桜は美しいものでした。下山道は緩やかな下りで歩きやすい。 誰に出会うこともなく今日の山行が終わりました。登山道は整備され道標もしっかりあるので心配ないです。

お土産をたくさん買って、春の桜の華やかさはないけれど、やさしい冬桜を楽しんできました。

日光・半月山（1753m）

記：阿部　芳夫

日　　程　　2015 年 12 月 2 日（水）（電車）
メンバー　　Ｌ阿部・下川・兼堀（恵）・澁谷・木原・石井（文）・鈴木（里）・
　　小野寺・田村・鎌形・新庄
コースタイム　　草加駅 6：26 発＝東武日光駅 8：25 着＝バス＝8：40 発＝中禅寺温泉 9：
　　25 着～～立木観音～狸窪（むじなくぼ）登山口 10：20～10：30～半月山
　　頂上 12：30～12：55～狸窪～中禅寺温泉バス＝東武日光駅 13：15 頃着

草加駅に朝 6：20 頃８人集合新越で３人合流し計１１人で出発。電車の中では天気も良さそうだし日光駅に着くと道路に雪もなく道も乾いている。廻りの山も雪は見えない誰かがアイゼンはいらないだろうという事で大半の人がアイゼンは駅のロッカーに置いていこうという事になり預けだした。自分の場合はリーダーでもあるためもしものことを考え一応持って行く事にした。他にも１人持った人もいた。すぐバスに乗り車内も案外空いておりゆっくり座れた。いろは坂を走り中禅寺温泉に着き下車し立木観音駐車場まで歩きトイレで少し休憩を取り湖畔を延々と１時間近く歩き狸窪登山口に到着しここでゆっくり休憩し登山の支度をして登り始める。登山道はあまり急登でもなく皆わいわいしながら登る。そのうち少しずつ雪があるようになった、登山道にも雪が残っており、また凍ってもいる。結構大変なようだ皆気を付けて登る。その内やはり持ってるアイゼンだけでもつけてもらおうと自分の４本爪の方を一人につけてもらい、もう一人の持ってきた自分のアイゼンを付けてもらった。他の人は安全運転して慎重に登った。約一時間くらいで半月峠に出た、そこで少し休憩をしこれからはもっと雪が多くなりそうなので皆気を抜かないで登ろうと気合を入れて行く。やはり雪が多くなってきた又急登にもなってきた。

でも草加山の会の人達だ大丈夫だろうと皆気合を入れながら登った。
その後約３０分近くで頂上に到着、頂上はあまり展望は良くないので日の当たる所を選んで寒さ除けをして昼食にした。昼食を済ませて１３：００頃下山に入った。下山はなお気を付けるようにして気合を入れながら下山した。
あの雪の中で滑ったり転んだりしないで皆無事に下山できた、狸窪登山口まで来てほっとした。あとは湖畔をどんどん歩き立木観音から中禅寺温泉バス停まで一気に歩き予定のバスに乗る事が出来た。そのまま日光駅に着き予定の電車で草加に向かった

参加者の皆さんお疲れ様でした、ありがとうございました。

丹沢 塔ノ岳・鍋割山　ヤビツ峠から大倉へ

記:山口　裕史

◆山行日:2015年12月5日

◆メンバー:山口裕、森(律)、小林

◆コースタイム: 8 時間（休憩 1 時間含）

ヤビツ峠 8:35→9:57 二ノ塔→10:17 三ノ塔→10:50 烏尾山→11:12 行者ヶ岳→11:56 新大日茶屋→12:00 新大日→12:12 木ノ又小屋→12:41 塔ノ岳→13:02 金冷シ→13:54 鍋割山荘→14:57 後沢乗越→16:40 大倉バス停

久しぶりに木曜から風邪引いてしまいましたが、天気も良く、何とか歩けるだろう風邪は山の良い空気を吸って治そうと言い聞かせ計画通り歩くことにしました。昨年冬にヤビツ峠に下りてきたときに登ってみたいと感じたので、登りで使うことにして時間によっては大倉下山ではなく鍋割山で鍋焼うどんを食べようという計画です。

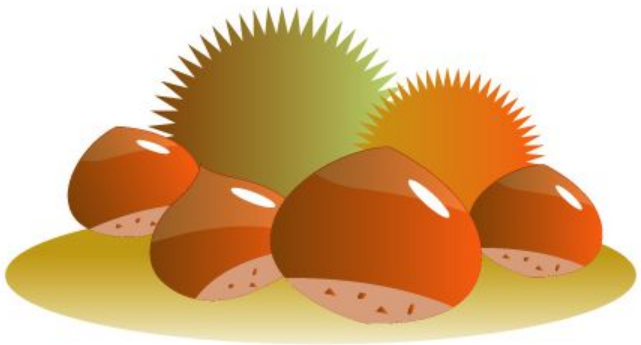
本日は文句無い快晴で想像していたとおりヤビツ峠からの尾根歩きは富士・塔ノ岳までの数々のピークを見ながらで期待通りだ。この時期でも比較的温かく、適度なアップダウンで体も温まる。反面日光により霜柱が水になりドロドロになるのは大倉尾根と変わらない。これからの時期は丹沢行くとこのドロドロとの戦いになるだろう。

塔ノ岳までは体調不良ながら順調に歩けた。近辺の蛭ヶ岳、丹沢山、鍋割山からは見たことがあったが塔ノ岳ではいつも曇って見ることが出来なかった富士山。今回はどんなに天気が急転しようが富士山は見えるコンディション。そして、塔ノ岳山頂 7 回目にしてようやく富士山を見ることができ喜びもひとしお。

標準コースタイム以上で歩けたので鍋焼うどんを食べに行くことに。そのため塔ノ岳ではゆっくりせずに出発し、14 時鍋割山に到着。小屋スタッフさんが「1 時ごろはものすごく売れていたが、ちょうど空いてきた時でよかったですね。」と言ってくれた。確かにこの時期は日が沈むのが早いので行動もみんな前倒しなのだろう。

下山の時間を心配しながらも最後は林道歩きなので、ヘッデン行動も問題ないだろうと考

え、3 度目の鍋焼うどんもゆっくりと味わった。寒くなってくると熱々のうどんが旨いッス。丹沢はもう冬・沢でしか来ないだろうと考えていましたが、行きたい仲間がいればたまには大倉尾根以外は面白いなと、改めて丹沢の魅力気がつきました。来年は宮ヶ瀬から歩いてみたいですね。



大野山　（忘年山行）

記：平野　祥子

日　　程　：　2015.12.06

メンバー：　**実行委員**　兼堀(善)、宮地、兼堀(恵)、中島(欠席)、澁谷(代行)　他 29 名

コ ース　：　松原団地 6:25＝大野山登山口着 8:15～8:25 発…共和小学校 8:50…
大野山山頂着 10:30（昼食）12:00 発…バス駐車場着 13:30＝道の駅
山北着 13:45～14:00 発＝洒水の滝着 14:15～14:30 発＝松原 17:05 着

メンバー全員のパワーなのか…天気は最高！！アクシデントで出発の出遅れも何のその予定通りに登山口に到着しました。

準備のできた班から大野山登山口を出発する。アスファルトの車道を進み民家をぬけて共和小学校前で小休憩。バスの中から見た富士山がふたたび見えた。大野山ハイキングコースの道標からいよいよ山道へ。地蔵岩の脇を抜けて狭い道を進むと小さな尾根道にでる。自然林の中、所々に紅葉が残っていて眼を楽しませてくれる。「もうすぐ長い急な階段があるよ！」と教えていただき気になる。しばらく行くと牧草地が見えて空に向かって真直ぐの階段道があった。おーなかなかいいね！！振り返ると相模湾が、かすみの中に大島が見えました。登りきって左に進むとイヌクビリ。車止めの車道は歩かずに不思議な動物たちの彫刻を見ながらすぐに山頂でした。我班が最後でみんな各々の場所を陣取り昼食の準備でした。山頂からはもちろん富士山、丹沢の山々等々…。全員で記念撮影をして昼食。風もなくて日差しがあたたかい。飲んで食べておしゃべりしてのんびりしました。

下山は富士山を見ながら牧場へと進む。こちらからの富士山は一段と裾野が見えて立派な山容でした。見晴らしのいい牧場をすぎてつづら折りの道を下る。無人販売所があって車道を横切り植林の中を進む。東屋とトイレの前の車道をふたたび横切って道なりに歩き運転手さんが待つバスに乗った。次は道の駅「山北」でお買い物。日本の滝百選「洒水の滝」は駐車場から直ぐにあり大きな滝でした。車内では差し入れを頂きながら渋滞もなくスイスイと松原団地に到着。

今年納めの忘年山行は天気に恵まれ最高の富士山を眺められて楽しかったです。

実行委員のみなさんには山行の下見、準備などありがとうございました。

宝生山（氷室山）1154m

ﾒﾝﾊﾞｰ：Ｌ芳野、山崎や、小野寺、澁谷　　記：芳野　光夫

12 月 16 日朝 6 時松原団地を出発する。今日は暖かく好天気が予想される。浦和 IC から東北道に入り、佐野から北関東道路に入り佐野田沼 IC から一般道に入る。201 号線を佐原方面に進み、8 時 5 分に西沢駐車場に着いた。身支度を整え、車道を沢沿いに進む。美しい沢で大小の滝が見られ、イワナの泳ぐ姿も見られた。10 分ほど進むと分岐になり、通行止めのバリケードされた車道に三滝方面と書かれてあった。通行止めの車道を進む。8 時 50 分、白ハゲ口広場に着いた。何度かトラバース気味に壊れそうな木の橋を渡る。直ぐ分岐なのに、山コースと川コースの標識も無く山コースの道を無意識に進んで行く。10 時、いつの間にか展望台の標識の有る所に着いた。三滝の展望台だが遠くに大きな滝の一部が見えるだけだった。そこから急な斜面を下り川コースの道に着いた。氷室山の分岐は、展望台の手前に有ったはずと思い直し、また展望台までの急な道を登り返した。その先に氷室山の分岐が確かに有った。トラバース気味に滑落に注意しながら進む。反対側の尾根に新しい林道らしいガードレールが続いていて、嫌な感じがした。目印のテープを辿りながら沢に出た。沢沿いにもテープが続いていて、それを目印に進んで行く。美しい沢で気持ち良く進めた。とうとう沢の終点らしい所に着いた。目印のテープは其処から尾根を直登している。予定では其処から反対側の尾根に取付くはずだったが、標識も無く登り切れば先が見えるだろうと思った。急な直登を 30 分以上続け、登り着いたら新しく作られた林道だった。11 時 30 分頃、直ぐ近くに十二山と室生山の登山道の標識があった。室生山に向かう、15 分程で室生山に着いた。12 時 5 分、ここから氷室山に向かって急な道を下って行く。氷室山が見付らない。林道建設の為、山が削られていた。どうにか林道に降りられる所を探し、壁面に張られた金網を伝って林道に降りた。其処から先ほどの標識の有る所まで、林道を登り返した。十二山の標識の有る所に 13 時 10 分に着いた。此処で遅い昼食を食べる。13 時 30 分出発、ここから十二山までは、歩きやすい低山ハイクの道だった。時間が押し迫っていたので早足で歩く。14 時 10 分十二山に到着。此処から三滝までのコースが難題だ。三滝方面に進んでいるつもりが、熊鷹山方面に進んでいる。違うと気づき引き返す。分岐の尾根に取付くピークを、巻き道で登らなかった為、分岐を見落としてしまったのだ。其処からも急な尾根道をテープ頼りに降り行く。途中尾根が二つに分かれる所がある。注意しながら進むが、三滝に近づくに連れて急坂になった。15 時 10 分、三滝の山コースの分岐に着いた。まだ明るい、白ハゲ口広場まで来た道を戻る。15 時 40 分、白ハゲ口広場に着いた。其処からは車道歩き、西沢駐車場にまだ明るい 16 時 15 分頃着いた。

今回、栃木 100 名山の山二つ登るつもりだったが、林道建設の為、山が崩され登山道が分断されてしまった。まだ建設中の為、地図にも載っておらず残念だった。でも全員で協力しあい、バリエーションルートを乗り越えられ、楽しめました。感謝します。

富山（３５０ｍ）

記：兼堀　善和

山行日：平成２７年１２月２３日（水）祝日

メンバー：L 兼堀（善）・兼堀（恵）・木原・澁谷・森（律）・畑野（仁）・大畑・金野・杉山・松井

コース：南越谷駅 6:44～9:21 岩井駅 9:50～10:30 福満寺～11:20 南峰～11:50 里見八犬士終焉の地（昼食）12:30～12:50 山頂北峰 13:10～13:50 伏姫籠穴 13:50～14:10 道の駅 14:30～15:00 岩井駅 15:36～1546 保田駅 16:00～16:15 ばんや 17:00～19:58 南越谷

[富山いわれ]

昔　それも大昔の話　大太法師という大人が上総から安房に向かいのっしのっしと歩いてきた。その時大太法師は砂で汚れた足を洗おうと、岩井の浜辺に立ち寄ったのですが「ああ眠くなった」と３キロ離れた富山を枕に大鼾をかいて寝てしまいました。大太法師は２１日間も眠り続けようやく目を覚ましたのですが、その時大勢の村人が何か相談をしていました。どんな相談をしていたか大太法師には聞こえませんでしたが、やがて村人達は長いハシゴを持ってきますと、大きな足の裏に立てかけ、いっぱいついている砂を落とし始めたのです。大太法師は足裏がくすぐったくて大笑いしながら、むっくりと起き上がりました。村人達は雲まで届いている大太法師の姿に驚きいつまでも見上げていました。その時から枕した富山は中がへこんで峰が北と南に分かれ岩井海岸ほ大太法師の足の砂で遠浅になったのです。　以上

年末最後の祝日にどこかに行きたいと思い、前から行きたいと思っていた富山に水仙を見に行く事に決めた。前日の天気予報で午後から雨の予想であったが南越谷まで帰ってくるまでほとんど降られなかった、やっぱり晴れ男かな？

交通費も澁谷さんのアドバイスで青春１８キップを購入、予定のほぼ半分ですんだ。

岩井駅から歩きはじめ福満寺に立ち寄り、富山遊歩道にはいりそこからかなりきつい傾斜の登りが続く（軽いハイキングのつもりで来たのに意外に山じゃん）かなり登って途中

海が見えたり景色を楽しんで南峰に次に北峰に向かう途中で里見八犬士終焉地の標識がある東屋でお汁粉をつまみに、ワイン・梅酒・焼酎で乾杯１０名でクリスマスを楽しんでいると道行く人にいい匂いがするねと、うらやましがられるほど楽しんで山頂の北峰に曇り空ながら富士山も眺められたが、雨が心配で早々に下山、途中で滝川馬琴の「南総里見八犬伝」の舞台とされている伏姫籠穴に立ち寄り、お目当ての水仙を堪能しながら道の駅から岩井駅に到着、最後にせっかく千葉に来たのだから旨い魚を食べたいと思い{ばんや}に行くことに、保田駅からのタクシー今日は一台しかないと三回に分けピストンしてもらいようやく美味しい魚にありつけた。

最後に年末の多忙時期に同行いただいた皆さんありがとうございました。

富士山を追いかけて

記：森　律子

冬のお楽しみはキーンと張り詰めた空気に中、雪をかぶった山々と青い空の美しいコントラストが楽しめること・・・
この時期は富士山の見える山に行くのが私のお気に入りです。

高川山編　　1月3日 メンバー（石井よ、石井ふ、小野寺、染谷、畑野ひ、森り）

新年山行として高川山に行きました。
この山は「富士山の眺めが日本一美しい町　大月市」の推薦する「秀麗富国12景」になっている山です。

毎年恒例の新年山行は初めての参加でしたが、英子さんの用意してくださった初めて食べた団子汁はとても手が込んでいてセリの香りがやみつきになりそうなすごく美味しいお味でした。
最高の富士山の景色を眺めながらお腹も心も満腹になり下山しました。

嵐山からの石老山　　12月13日　メンバー（兼堀よ、新島、森り）

一昨年の冬に南高尾の縦走をし、相模湖駅を目指して歩いているときに嵐山の登山口の前を通り過ました。そこで、相模湖の美しく見える山「神奈川景勝50選」でもある山ということを知り、行ってみたいと思っていました、嵐山だけなら物足りないので石老山まで足をのばすことにしました。天気予報は良くなかったのですが、晴れ男、晴れ女の2トップがいるので、雨には降られまいと決行することにし、相模湖駅から登山口を目指して歩き出しました。嵐山の山頂では相模湖の景色を見ることができ、そこから相模湖プレジャーフォレストへ下り石老山の登山口へ・・・前の月に皇太子様が登ったそうで､気のせいか登山道に枯れ枝がほとんど落ちていなくて歩きやすい、途中色んな形をした岩を眺めながら楽しく山頂へ、山頂では綺麗な富士山が見えたハズでしたが、あいにくガスの中、大明神方面へ下山しました。枯れ枝がいっぱい落ちていて登りの道と全然違ってこっちは絶対に歩いてないぞ！話しながら楽しく下山しました。

やっぱり富士山が見える山はいいなぁ～秀麗富国１２景もすべて登ってみたいと思っています。

愛鷹山-位牌岳 今年も富士を見て山納め

記:山口　裕史

◆山行日:2015年12月27日

◆メンバー:山口裕、山口敏、嶋田

◆コースタイム: 7 時間 30 分（休憩 1 時間 30 分含）

水神社 7:10→9:03 愛鷹山 9:21→9:50 馬場平→10:15 袴腰岳→11:20 位牌岳 12:20→14:34 水神社

年納めはやはり富士山ということで、昨年越前岳から見た富士山に感動し、今年は愛鷹山の南半分の愛鷹山から位牌岳周回コースをチョイスしました。愛鷹山からのまさに絶景、愛鷹から位牌岳への稜線歩きも枝越し富士山や振り返ると駿河湾を見ながらでなかなか面白くもあり、予想以上に満足いく周回ルートだった。位牌岳では雲に巻かれなかなか富士山が顔をだしてくれず、昼食がてら 1 時間粘ったが全貌は見えず、次回以降の課題となった。このルートは思いのほか人が入っておらず、今回は 5 人とであったのみで静かな山歩きだったのも満足度が高い！

沼津だと下山後に沼津港で海の幸。ちょっと奮発して丸天でいただいた刺身盛り合わせには大満足。しいて言えば、車なのでお酒が飲めないのがちょっと残念か。

今年は、1 つの目標である百名山もコンスタントに登り残り 8 座になりました。北海道の山、初遠征道東 3 座。沢登り 4 本。念願だった乗鞍高原の一ノ瀬キャンプ場テント泊、5 年ぶりに年間山行日 50 日と満足の年でした。来年はより満足いく山登りが出来る年になると嬉しいですね。

丸天のご馳走美味しかったです！

羽賀場山

記：芳野　光夫

期日：2016 年１月 4 日

ﾒﾝﾊﾞｰ：Ｌ芳野、鈴木(廣)、澁谷

山の本を見ていたら、懐かしい羽賀場山の名が出て来た。２万５千の地図を探して見てみたら、赤鉛筆でルートが書かれてあって脇に 94, 2, 20 とメモってあった。今から２２年前の記録である。１月４日又は５日に久しぶりに鈴木廣氏を誘って行ってみたくなり山の会の忘年会に資料をコピーして行く。渋谷さんも加わり１月４日に３人で行く事になった。

当日、晴天で温かい日になった。今年の正月は晴天で温かい日が続いている。６時に松原団地に集合する。東北道を鹿沼ＩＣに向かい、そこから古峰ヶ原方面に向かう。登山口の長安寺に７時 50 分に着いた。登山口を探すが見つからず、境内まで行く。その先に羽賀場山の標識があった。しかしその先は樹木の伐採地になっていて。ブルドーザーが作った道を進む。登山道が何処に有るのやら？とにかく高い方へ向かって進む。最初の目標は高架線の鉄塔である。何度も回されるので、最後は直登する。伐採地の最上部で漸く登山道に出た。そのまま登って行くと最初の鉄塔に出た。８時 30 分。此処からは踏み跡もしっかりしていた。９時５分、２番目の鉄塔に着く。その先岩場の急斜面に落ち葉が積もっていて滑りやすく緊張する所があった。急な斜面を登って、主稜線の分岐に着いた。９時３０分。そこから稜線を羽賀場山に向かう。少し雑木林に変り展望も開けて来た。１０時、一等三角点のある羽賀場山に着いた。標高 775ｍここから標高 777ｍのお天気山に向かう。此処からは藪山になる。しばらく行と急降下の尾根になる。先にピークの山が見えない。730ｍ峰を越えるとロープの張られた岩場になった。慎重に足を進める。その先も急登になる。藪山は稜線上を歩くだけなので、人為的に作られた迂回路も無い。這うように登って漸く 777ｍのピークに着いた。お天気山の標識は無かった。１１時１５分、此処でゆっくりと昼食をとる。日向は温かく風もない。遠くに日光白根の真っ白な山が見える。昼寝でもしたくなる様な春のような陽気だ。１１時５０分、来た道を引き返す。同じように急降下と急登が続くが、帰りは余裕が出来て踏み跡が良く見える。１３時羽賀場山に着いた。近くにつつじの花が咲いている。何度か陽だまりで休みながら１４時４５分予定通り駐車場に着いた。何も無い藪山だったが、お天気が好く、楽しめました。

パノラマ台（精進湖）（1328m）

記：畑野　順二

◆山行日：2016 年 1 月 9 日（土）
◆山行者：L 畑野(順)、畑野(仁)
◆コース：家 5：30－精進湖駐車場 8：15－精進峠 9：25－パノラマ台 10：30－精進湖駐車場 11：55

雪をかぶる、富士山を見に精進湖パノラマ台に行きました。
精進湖からの富士山は、西側になるので、時に雪が少ないです。
精進湖から、精進峠に上がる登山道を探すがありません。
コンパスで精進峠の方向を確認し歩きだしました。
踏み跡があり一本道なので間違えないと思いながら歩きました。
尾根まで上がると、パノラマ台の標識があり一安心しました。
尾根を歩きパノラマ台まで行きました。
パノラマ台は、大きな広場で、何も邪魔する物が無く、富士山がドーンと見えました。
ただ、雪が少ないのが残念です。
今度は、2 か 3 月に竜ヶ岳に行こうかと思いました。
帰りは、パノラマ台入口へ下山します。こちらの登山度は、登ってくる登山者がいました。
こちらからパノラマ台まで、往復されているようです。

まだ、早いので 1000 円札の富士山を見に本栖湖へ行きました。
車でどこかと走っていると、車を止めて撮影している人がおられたので、駐車したら間違いなく、ここからの富士山です。

景信山～高尾山

記：井口　宮子

【山　行　日】　平成28年1月10日(日)
【メ ン バ ー】　L井口　小林（い）

【日　　程】　南越谷駅 6:36＝7:50 高尾駅 8:12＝小仏 8:45―(ス)10:00 景信山
····11:00 城山····11:40 一丁平 12:20····13:00 稲荷山コース
14:30 高尾山口(極楽湯)····高尾山口駅 15:45＝17:05 南越谷

今年初めての山行は、晴天に恵まれ、富士山も愛でて良いスタートが出来た。中央高速道小仏トンネル入口の真上に登山口があった。このコース、今日は長蛇の列が出来て、改めて人気の山なんだと実感させられ、一時間程で景信山に着いてしまった。

茶店のあちらこちらに、臼と杵が準備されているのは、もしかして私達の為におもちを搗いてオモテナシ？？そんな訳ないよね。でも大丈夫ヨ！！いっちゃんが背負って来てくれた、おもちを焼いて、美味しいおしるこをいただいた。

一丁平展望デッキからは富士山が美しく見えた。丁度そこのベンチが空いたので、野菜たっぷりラーメンを作ってランチにする。食べてばかりかな？

高尾山に向かう途中、霜柱が解けてぬかりそうな所々には、菰(あらむしろ)が敷かれて歩きやすい上、足裏が心地良かった。

下山後、今日のもう一つの楽しみ、高尾山口に新しく出来た温泉「極楽湯」で檜風呂・露天岩風呂などなど、いい湯を堪能し、松の内ならではの、うれしいゆったり山行でした。

臼と杵

南アルプス「鳳凰三山」冬山

２０１６年1月１１日　松浦　剛

期　　日：２０１６年1月９日～１０日
場　　所：鳳凰三山「薬師岳」２７８０ｍ
メンバー：Ｌ、石井、松浦、鈴木(勝)、山口(裕)

１、　はじめに

今回の冬山は石井さんに誘われ実行したが、これが７４歳の思い出の山登になるかもしれないと思い参加した。７０歳に近ずくにしたがい、もう厳しい山登りは出来ないであろうと、常に毎年最高の山登りを目差してやってきた。６９歳５月雪の霞沢岳、７０歳北穂高東稜の登攀、７１歳西丹沢同角沢の登攀、７３歳谷川岳東尾根の登攀、と行ってきたが、この様な厳しい山登りが何時まで行えるのか判らない。私としては今回の冬山は雪が大変少なく、ラッセルもなく、楽であったので出来たと考えている。当初は八ヶ岳を登る事になっていたが、まったく雪がなく、冬山としての面白みに欠けるので、急遽南アルプス鳳凰三山となった。

２、　記　録

１月９日

５時３０分、草加松原西口出発。快晴の空の下に南アルプスの夜叉神峠に向かう。
９時００分、夜叉神峠下駐車場着。小屋の前の駐車場には、既に３０台以上の車が駐車している。思ったより登山者の数が多いのには驚く。直ちに荷を整理しザックにつめ出発する。
９時２０分、夜叉神峠駐車場出発。直ちにしばらく急登を強いられるが、やがてジグザグな穏やかな坂道となる。本来であれば下の車道から雪に覆われていなければ成らないが、まるで雪がない。唐松の林の中に真っ直ぐ伸びた唐松の木が、朝日の中に黒く空に伸びている。
１０時３０分、夜叉神峠着。雪がなく緑の笹原が広がり、唐松の裸の木々が並び、その奥に白銀に輝く白峰三山が聳えている。右から池山尾根越しに北岳バットレス上部が顔お出し、左に白い山稜が間ノ岳へと盛り上がっていく。さすがに間ノ岳は大きく幅広く、素晴らしい山容だ。間ノ岳の隣には二つの頂を持つ農鳥岳が並び、素晴らしい眺めである。しかし峠に雪がないのが何とも寂しい。峠よりしばらく笹腹の中を歩くが、やがて痩せた尾根の急登となる。これを過ぎると緩やかな長い登りとなり大崖頭山脇の杖立峠へと続く。

１２時３０分，杖立峠着。峠と言うよりは大崖頭山の中腹の様な展望もない所で、峠を越えるとしばらく下るが、さすがに少し雪が道脇に見えるようになるが夏道同然である。苺平への登りに掛かると雪が多くなり、雪道をダラダラと登るが、長くて大変である。地図で２５０１ｍ地点があるが、ここは広々として雪に覆われ、白峰三山の眺めが良い。此処よりはなお緩やかな雪道の登りとなり苺平へと招かれるが､いよいよ本格的な雪道となり、下山者はアイゼンを装着している様になる。
１４時５５分、苺平着。苺平は尾根の稜線が平らに広がった所で、針葉樹林に覆われており、展望はなく、辻山への分岐点でもある。山口さんは一人で辻山へピストンする為に、我々と別れるが、我々はこれより尾根を超えて緩やかに下降と少しの上りを交えた雪道を歩き、南御室小屋へ向かう。やっと冬山らしい寒さと雪景色になってくる。

１５時３０分、南御室小屋着。小屋の前は雪の広場となり、かなりのテントが張ってある。すでに日差しは無く、寒々とした広場に天幕を張り中に入る。この広場に最後に来たのは２５歳の時であり実に懐かしい。テントの中で酒を酌み交わし楽しい時間を過ごす。

１月１０日

４時３０分、起床。

６時２０分、南御室小屋発。

小屋の脇を通り、しばらく急登を強いられるが、やがて樹林帯の穏やかな雪道を登るようになる。しばらく登ると東の空が赤く染まり、秩父連峰の上に朝日が昇る。這松が目に入る様になり、急登となると、砂払岳の稜線に出る。

７時４０分、砂払岳の稜線に出る。雪がまるで無く、目の前には白銀の白峰三山が雄大に聳えていた。前方には薬師岳が雪の無い尖った山容を見せている。しばらく岩場を下降すると、薬師小屋に着き、雪道を登るとすぐに砂場の多い斜面となり、これを登り山頂にたどり着く。

８時１０分、薬師岳山頂着。雪の無い山頂はあまり感動も無く、目の前の北岳バットレスが高山に来た事を印象付けてくれる。山口さんは観音岳までピストンする為に出発する。

朝日に輝く北岳バットレスと間ノ岳

８時２０分、山頂を後にする。風が強く寒いので、写真を撮り直ちに下山する。

９時３０分、南御室小屋着。しばらく休んでいると、山口さんが下山してくる。テントを撤収し下山する。

１０時２５分、南御室小屋発。一夜お世話になったテント場を後に、苺平へ向かい雪道を登る。雪道をダラダラと登ると、やがて尾根の上の苺平に着く。

１１時１５分、苺平着。樹林帯の雪道を下るが、だんだんと雪も少なくなりガチャガチャと岩の上をアイゼンで歩く様になる。

１１時５０分、アイゼンをを外し一休みして下降する。雪交じりの滑りやすい山道の長い下降が終り、登りに掛かれば杖立峠も近くなる。

１３時０５分、杖立峠着。やっと苦しい登りから開放され、後はほとんど下降だけだ。夜叉神峠に近ずくと、痩せた尾根の急下降となり、しっかりと下降する。やがて笹原の中をのんびり上り下りすると、夜叉神峠が目の前に広がってくる。

１４時２０分、夜叉神峠着。午後の日差しを受けた白峰三山が目の前に横たわる。熊笹の原と、葉の落ちた唐松越しにみる白峰三山は余り迫力が無い。２０分ほど休み峠を後にする。

１５時３５分、夜叉神峠駐車場着。重荷に耐えやっとの事で、下山できホッとする。石井さん，鈴木さん、山口さんお世話になりました。

鎌倉アルプス　天園コース

記：出口　栄子

★実施日：2016 年 1 月 15 日（金）
★メンバー：L 上原、SL 黒澤、兼堀(恵)、中島、渋谷、石井(文)、大畑、平野、新庄、
鈴木(里)、畑野(仁)、山口(敏)、八並、山崎(正)、金野、出口、小野寺、
中川、江崎
★コース：草加 9：22 ⇒ 錦糸町 7:46／7:54 ⇒北鎌倉 8:55
北鎌倉 9:00……建長寺 9:15／9:35……半増坊 9:55……十王岩 10:10……
大平山 10:45……天園茶屋 11:00（昼食）11:40……瑞泉寺 12:20／12:45
……鎌倉宮 13:05……鶴岡八幡宮 13:35／14:00……鎌倉駅
鎌倉 15:25 ⇒ 錦糸町 16:34／16:41 ⇒ 草加 17:05

今回、総勢 19 名 L 上原、SL 黒澤の 2 班で行動する事になりました。
このコースは途中鎌倉市最高地点 159.2ｍの太平山(おおひらやま)を通り、出発は鎌倉五山第一位
建長寺から、鎌倉公方菩提寺夢想国師開山瑞泉寺までの、変化に富んだ内容になっています。
当日は風もなく、冬の日に丁度良いハイキングでした。
建長寺で拝観料 300 円を払い、階段を上って烏天狗の像を見ながら半増坊へ。
勝上献展望台で殆ど富士山は見えませんでしたが、その先の十王岩から見下ろす真っ直ぐの若宮王路と、鎌倉ならではの街並みは印象的でした。
大平山で集合写真を撮り、一軒目の天園茶屋で昼食をとりました。
山道は切り通しの雰囲気のある岩の狭まった所や苔むした岩場、更に、岩場の上の仏像に祠等、竹林、椿、青木の赤い実、蝋梅と楽しめました。

大平山山頂

瑞泉寺で拝観料 200 円を払い散策した後鎌倉宮へ。護良親王の身代わりとなった村上義光に由来があり、厄除けの御利益があるようです・
鶴岡八幡宮の段葛は三月まで工事中で通れませんでした。お参りして 14 時解散。神苑の寒牡丹が見ごろでした。でも、皆小町通りで花より団子？お土産と女子会でにぎやかに過ごして帰りました。
入念な計画作成、上原リーダー有難うございました。
孤高の男性二名、お一人は当日誕生日と後で私は知りました。

石割山（山梨県山中湖）でダイヤモンド富士

記：宋　寅虎

山行日：2016 年 1 月 16 日（土）
メンバー：L 山口裕史、兼堀善和、畑野順二、森律子、柳瀬真由美、宋寅虎
コースタイム：8:40 松原団地出発－河口湖 IC（2 時間）－ パノラマ台－20 分－鉄砲木ノ頭 14:20 参道登山口－25 分－富士見平－50 分－石割山山頂（16:30）－30 分－平尾山－15 分－参道登山口（17:30）

富士山が間近に見える石割山（1413m）。昨年の三国峠（群馬）以来の 2 回目の山であり、初の冬山でもあった。山中湖の近くに到着し、周辺を散策してから時間も昼近くになりおそば屋「奥藤」のランチで全員満腹（鳥もつ煮のサービスセットはお勧め）、早く山を登りたーい気持ちが益々沸いてきた。

今回は山口 L 計画のもと、お試し山行の柳瀬さんと新人の私のため、練習ハイキングとしてパノラマ台から鉄砲木ノ頭まで約 25 分登った。そして頂上に着いて振り向いた後ろは何と素晴らしい景色でしょうか。正面には山中湖が広がり、残念ながら富士山は雲に隠れていたが、その右手には南アルプスのパノラマの絶景が広がっていた。

いよいよ石割山へ出発。駐車場近くの参道登山口からいきなり特訓のような403段の階段登りが待っていた。しんどかった。先のハイキングが無かったら多分 give up したと思う。石割山の山頂に到着、体が冷えないようにと、兼堀さん・山口さん、律子さんの素早い手が動く。シートを引いて温かい飲み物を用意する。昨年三国峠に行った時、浅井裕子さんが屋根の下で温かいスープを作り、みんなが雨で冷えたからだを温めたことを思い出した。ここでしか逢えない幸せだろうか、何十年も仲間と共に山を登り続けられる力であり平凡な理由かも。感謝です。

日の入りまでを待ちながら、富士山を眺めた。美しい。少し掛かっていた雲も私たちの願いを聞いてくれたのか、「ダイヤモンド富士」を山頂から拝めることができた。その神秘的な瞬間は一生忘れられないだろう。草加山の会に入って良かったな！と、自分の心の中で言わせた山行でした。今後ともよろしくお願いいたします。

記：嶋田　博久

◆山　行　日：2016 年 1 月 20 日　水曜日
◆メンバー: L 新庄、黒澤、澁谷、兼堀(恵)、小宮、石井(文)、芳野、木原、阿部、嶋田、小野寺、山﨑(正)、八並
◆コースタイム：８時間５分（休憩 60 分含）16km
常磐線岩間駅 7:45→8:55 愛宕山→10:35 団子石峠→11:50 難台山 12:20→13:20 道祖神峠→14:00 吾国山→15:20 吾国山登山口→15:50 水戸線福原駅

草加山の会に入会後、初めて会山行「笠間･吾国愛宕ハイキングコース」に参加させて頂きました‼　数日前の雪の状況が心配でしたがなんのこっちゃ、アイゼンあるじゃん‼
一足先に岩間駅に降り立ち気合い十分、初めてご一緒する大ベテランの皆さんを緊張しながら待ち、愛宕山～吾国山迄の道のりをイメージしてワクワクしていました。

愛宕山(806 年)･･･日本三大火防神社の一つで昔天狗が住んだという伝説がある所です。「あたご天狗の森スカイロッジ」では、黒澤さんの御親戚の方よりお茶と名産、出来立て栗饅頭を差し入れして頂き、とっても美味しかったです。ご馳走さまでした‼

さあ‼　いよいよ縦走スタートです。里山らしく自然豊かな木々に囲まれた広めの登山道を、奥へ奥へ歩くと、突如急坂(^^)見晴らし台下の登りは地面も凍結、ロープに頼りながらでした‼
見晴らし台からの太平洋･田園風景･霞ヶ浦は絶景ですよ。

ただ、楽しみにしていた筑波山は終始雲に隠れ、私に嫉妬してるの？「安心して下さい、また必ず会いに行きますよ」(笑)と筑波山にラブコールかけながら一息付き、いざ最高峰の難台

山へ。これが此が噂の急坂アップダウンの連続、必死に登ったと思いきや？下る？少し平らで快調に歩いてたら？また急坂、と皆さんの元気な笑い声･トーク･鳥の声･木々の音を BGM にしながらやっとの思いで難台山登頂！　あ～～つ～い～た～‼　正直な感想。

難台山山頂

福島から来た山岳会の方達と一緒に昼食。手作りお赤飯、御新香美味しかったです。

さあ～吾国山へ向けて気を取り直し出発。ええ～いきなり下りの急坂、ここから一気に約 250m の下り、さすがに脚が攣りそうになった方へ、出るは出るは‼‼‼ 非常時の漢方やらサポーター、びっくりしたのはゴムバンドで患部付近を思い切り締め上げ、20 秒後血流を一気に流す事で改善させるという凄技‼　とても勉強になりました。

難台山の下り

道祖神峠から吾国山(神社には伊勢皇大神宮を祀る我国山から転じたそうです)迄が一番キツい急坂(^^)。アキレス腱が伸びる伸びる　しかも雪～・滑りながら最後の登りを歩いて来た難台山を振り返りながら、噂通りの急勾配は楽しかったです。

吾国山は、カタクリの群生地(白いカタクリもある)でもあり、今回のハイキングコースは 3 月～4 月は桜も咲き乱れるとても良い山だと思います。是非もう一度訪れたい山になりました。

アップダウンの連続

今回、会の皆様と時間を共にし、山を愛する心、経験、知識、そして自分の親と同世代の皆様と同じ気持ちで山を歩けた事がとても嬉しく良い経験になりました。今後も草加山の会を盛り上げる役目になれるように、もっともっと精進しなくては？と思いました‼

吾国山山頂

帰りの水戸線大和駅と新治駅間の車窓から大池と筑波山塊が映り、最後の別れを惜しむかの様に綺麗に顔を出してくれた「筑波山‼」顔見せてくれてありがとう‼ そして皆様今後もどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました‼

浅草七福神と史跡巡りの江戸散歩　　松浦　剛

期　日：平成２８年１月２４日（日）
場　所：浅草の隅田川縁の史跡巡り
参加者：Ｌ、松浦、畑野、文子、中島、小野寺、上原、黒澤、小林い、渋谷、松田、宮子、金野、平野、兼掘２名、木原、杉山、染谷、中川、古田島（松浦友人）

浅草松屋の東武線駅からスタートする。

９時４５分頃浅草松屋をスタートし最初の目的地「駒方堂」に向かう。浅草麦とろの店の脇にある駒方堂は、浅草寺の観音像が海から引き上げられた地点とされている。直ぐ後ろは隅田川で、古代は海であった。この後は花川戸を通り墨田公園の中を歩き、東京大空襲の犠牲者の慰霊碑に黙礼し、最初の七福神「真土山聖天宮」にお参りに行く。社殿は真土山の標高１０ｍの高さにあり、江戸時代には展望台であった。古代は浅草港の海からのランドマークでもあった。聖天宮の裏手は聖天町で小説家「池波正太郎」が住んでいた。真土山を下ると今戸橋の欄干があるが川はない。私の子供の頃は山谷堀が流れており、江戸時代は吉原に行く船の通路であった。又此処には向島との「竹屋の渡し」があった。山谷堀の埋立地を歩き、近くにある江戸時代に浅草弾左衛門（裏社会の大親分）が住んでいた屋敷跡を見てから「今戸神社」に行く。此処は中世平安時代に八幡太郎義家が祈願したのが始まりと言われ、今では若者の結びの神として人気が高い。再び墨田公園脇を歩き、私が子供時代住んでいた今戸町の家の前を通り、直ぐ近くの「保元寺」に向かう。この寺は幕府の軍艦奉行「榎本武揚」の菩提寺であり、函館の五稜郭で敗れて捕らえられ、この寺で謹慎していた場所でもある。

石浜神社にて

橋場の町に入り暫くと、妙亀塚公園がある。ここは中世時代に世阿弥の作った能の謡曲「隅田川」の舞台のひとつであるが、梅若の母が我が子梅若の死を悲しみ妙亀と言う尼になるが、悲しみの余りこの地にあった鏡ヶ池に身を投げて亡くなってしまい、それを弔って造られた塚である。この公園の近くには大正時代まで鏡ヶ池は存在し、地図にも載っている。

これより白髭橋方面に向かい「橋場不動尊」に行

く。通りから入り細い路地の奥に江戸時代に建てられた橋場不動尊の古いお寺がある。この寺は中世平安時代から存在するが、七福神の布袋様である。橋場不動尊を出ると直ぐに明治通りとなり、白髭橋の脇を通り隅田川沿いに３分ほど行くと「石浜神社」となる。中世時代は石浜港として栄えたこの地の守り神として、平安時代から存在する歴史ある神社である。

目の前の隅田川の対岸には古代から中世まで墨田宿が存在した。石浜港と墨田宿の間には「墨田の渡し」が古代から江戸時代まで存在し、古代には東海道の渡しとして交通が盛んであった。平安時代初期に在原業平の書いた「伊勢物語」には墨田の渡しで詠った「なにしおわば、いざ言問わん都鳥、我を思う人は、ありや無しやと」の短歌は、隅田川を京の都に広め、全国的に浅草の隅田川は有名になる。白髭橋を渡り、隅田川の対岸に行き今は公園となっている、古代から中世の墨田宿を通り、隅田川神社の前の公園で休憩し昼食とする。昼食後は墨田宿の守り神であった隅田川神社と宿場の葬儀場であった母木寺を見学する。母木寺には中世から「梅若塚」が存在し、塚は大きなガラス張りの建物の中に保存されている。世阿弥の能「隅田川」の物語の発祥の地である。中世まで奥州街道の起点であった墨田宿は、江戸時代初期に奥州街道が千住大橋を架け、千住宿に移転してしまい、その使命を終わり自然消滅してしまう。帰りには橋場にある「平賀源内の墓所」を見学し、吉原に向かう。馬道から吉原に入る所には「見返りの柳」があり、過って吉原で遊んだ男たちが、帰り際に遊女を思い出し吉原を見返ったと言う場所である。町の中に入ると暫くして「吉原大門」と書かれた柱が、道の左右にあり、過っては此処に吉原大門があり、ここから先は吉原の町であった。現在街中はソウプランドの店が立ち並び、慣れない人には気味が悪いかも知れない。ソウプランド街の外れに、吉原の町の守り神としての吉原神社がある。遊女に因んでか、此処は七福神の弁天様「弁財天」を祀っている。吉原神社の先には過って弁天池があり、関東大震災で吉原が焼け、４９０人の遊女がこの池で亡くなり、その慰霊塔がある。

古代からあった「墨田の渡し」のあった場所

吉原大門跡から見た吉原の街中

吉原の町を過ぎると近くに　鷲神社　がある。お酉様の縁日で有名の神社であるが、江戸時代初期に造られた神社である。有名になったのは吉原がこの地に移転してからである。最後は浅草寺に入るが、外国人で大賑わいである。浅草寺の隣には浅草神社

（三社様）が在り、これをお参りして終了となる。この神社は浅草寺の観音像を発見した檜前（ひのくま）兄弟２名と観音像を安置し祀った土師氏（はじし）の、浅草寺を古代に創建した３名を祀った神社である。草加で楽しく打ち上げをし終了。

浅草の史跡巡りの感想　　小林いつ子

松浦さんのお友達を含め２０人もの大勢で、駒形堂から始め、三社様へと良く歩いた。松浦さん執筆の本（古代から中世の江戸浅草を探る）によると、浅草駅辺りから見た隅田川の向こう側は古代海であったという。埋め立ての繰り返しで今のような景色になったようだ。ちょっとした高台にある待乳山聖天が、江戸時代はラウンドマークとして親しまれていたとは驚きだ。

私が一番来てみたかった橋場不動尊は、参道脇の格子戸から割烹着を着たおばさんが出てきそうで、何だろう！この懐かしい気持ちは？来たこともない土地なのに！と思った。

そして、小説（剣客商売）の主人公になった気分で石浜神社―白髭橋の土手歩きを楽しんだ。後半は木母寺から白髭橋を折り返し平賀源内の墓に参った。少し風が冷たくなってきた。聞いてはいたが、吉原に入ると全く雰囲気が違う。私たちには勿論声掛けはしないが、今でも客引きのお兄さんの目線がある。

やっと、浅草寺に着くと外人さんがいっぱいでお正月の様な騒ぎに世界的な日本ブームを改めて感じた。浅草の今がある大もとの三社さんから東武浅草駅までの雑踏の中、ここで迷子は恥ずかしいので必死でついていった。

松浦先生・メンバーの皆さんありがとうございました。

いつ子

南八ヶ岳編笠山～西岳周回

記:山口　裕史

◆山行日:2016年1月31日

◆メンバー:山口裕、会員外2名

◆コースタイム: 7 時間 20 分（休憩 60 分含）

富士見高原リゾート駐車場 6:30→7:00 五叉路分岐→7:08 盃流し→7:40 臼久保岩小屋→9:50 編笠山 10:20→10:36 青年小屋 10:45→→11:45 西岳 12:00→12:50 林道出合→13:30 不動清水→13:35 五叉路分岐→13:50 富士見高原リゾート駐車場

当初の予定では青年小屋でテント泊し、2 日目権現アタックの予定でしたが、金～土にかけて雪が降るとの予報だったため、日曜日帰りに計画を変更しました。土曜に雪が降ってラッセルかと思っていましたが、楽しみにしていましたが、ほとんど降雪はありません。おかげで登山口から一応雪はあるものの前週以前のトレースもバッチリで拍子抜けです。この時期観音平はゲートが締まっていて入れないために、冬は南西の富士見高原からのルートになります。しばらくは樹林帯で足元や風の心配はないですが、抜けると岩ゴロゴロで雪が中途半端なため足の置き場注意。そして風強いので飛び出す前に防寒しっかりします。条件が厳しくなる代わりに展望が素晴らしい。そして登りにある案内板のコメントが面白い。山頂からは 360 度絶景。富士山、南ア、中央ア、御岳、乗鞍、そして権現を筆頭に八ヶ岳連山。山頂は雪も適度にあり冬山に来たっていう満足感が得られました。

青年小屋から西岳はなだらかな樹林帯歩きになりますが、西岳に着くとまたここも展望が素晴らしい。

危険箇所はほとんどない上、西岳周回コースは適度に長く歩け、この時期はお勧めのルートの 1 つになりました。編笠ピストンもお勧め。次回は権現アタック是非したいものです。

東照宮から女峰山　久しぶりのラッセル

記：山口　裕史

◆山行日：2016年2月6～7日

◆メンバー：山口裕、会員外1名

◆コースタイム:

1日目：9時間12分（休憩30分）日光東照宮 7:40～8:10 行者堂～8:50 殺生禁断境石～11:15 白樺金剛～12:40 八風～12:58 遥拝石～16:50 唐沢避難小屋泊

2日目：6時間30分（休憩1時間）唐沢避難小屋 6:35～7:40 女峰山 8:10～8:30 唐沢避難小屋 8:50～10:15 遥拝石～10:30 八風～11:05 白樺金剛～12:30 行者堂～13:05 日光東照宮

日光でも歯ごたえがある冬の女峰山へチャレンジ山行です。雪があると唐沢避難小屋まではかなり厳しいルートになるため、13:00に遥拝石にたどり着けなければ、諦めて下山を考えて挑みました。

いきなりのアクシデントは最初から。当初予定していた滝尾神社からのスタートが、大通りから細い坂道をしばらく車で登っていくと2台前で車が斜めっている。様子を見ていても一向に動かないので見に行ったら、なんとノーマルタイヤではないか！おそらく先にある雲龍渓谷を目当てなんだろうが、この時期の日光に平気でノーマルタイヤで来る神経がわからん。一度車を立て直す為に手を貸したが、復帰したからと言って戻れるわけもなく、ジャフが来るまで通行止めと早々に判断し、東照宮からのスタートに踏み切った。こちらからだと40分余計に歩くことになるが、しゃーない。

戻って装備準備して出発は1時間10分押し。行者堂からトレースがついていたが、なかなか深い雪でワカンを早々に装着して歩く。何とか遥拝石に13：00到着できた。少し休んでいると降りてきた6人パーティ。トレースあると安堵していたら、再訪する時のために、すぐそこに荷物をデポしに来たらしい。

少し登ったところで踏み跡はなくなった。ここから本当のラッセルとなるが、重装備で足がなかなか前に出ずにのろのろと進む。展望の開けた箇所で休憩していると若手2人男女ペアが颯爽と登場。あっという間に追い抜き、一度追い越したが、その後はひたすら若手男性がガッツリとラッセルして進

んでくれた。交代交代と考えたが、とてもじゃないが追いつかないので、ありがたく後ろをついていくことにした。日が沈む前 17 時近くに避難小屋に到着。若手パーティがいなければおそらく日の入り後 2 時間は歩くハメになっていただろうと思うと本当に運が良い。ただ通常コースタイムの 2 倍で見積もっていた自分の目論見の甘さが反省点となる。

小屋は 2 パーティ 4 人。話を聞くと 21 歳で某山道具店のスタッフさん。体からあふれ出るパワーにただただ驚嘆した。翌日も先行した若手パーティ。通常ルートの右よりの直登でコースタイムを縮めていく。やはり若いって凄い。

山頂に着くと晴れ渡った青空に日光の峰々。富士山も意外に大きく見えた。風が冷たく、久々の重装備ワカンに厳しいルートを登ってきた充実感は格別のものだった。

冬山の下山はあっという間で 13 時には観光客でにぎわっている日光東照宮に到着。雪が少ない今シーズンであるが、日光の山は期待通り雪が楽しめ満足でした。

黒斑山雪山入門

まとめ：山口　裕史

山行日：2016 年 2 月 11 日（木・祝日）
メンバー：L 山口裕、嶋田、宋、山本、山口(敏)、山崎(寧)、山﨑(正)、小野寺、会員外 1 名
コースタイム：4 時間 45 分
8:40 高峰高原ホテル前 9：25－表コース→11：30 トーミの頭 11：45→12：00 黒斑山頂 12：30→コース分岐－中コース→14：10 登山口駐車場

新会員の宋さんからのコメント

2016 年 2 月 11 日、今回の黒斑山（2,404 m）は、初めての 2 千 m 級の山であり、雪山ハイクであった。思っていた以上に風のない穏やかな天気にも恵まれ、雪の量は多く急斜面も凍結しておらず、冬山入門登山の自分には絶好の日であった。約 2 時間かけ高峰温泉～車坂峠～トーミの頭までやっとの思いで登り、真っ白の浅間山の姿を見ることができた。
登りは軽アイゼン、ピッケルの使い方、下りはアイゼンの後に、わかんをつけて歩き方を教えてもらいながら基本の練習ができた。しかし、スタート時点から、いきなり雪山の道だけに、体・足がついていけず、他のハイカーほど十二分に絶景を、雪山を楽しむ、感じるような気持ちすら持つことができず、きついなあ～悲鳴が口からもれてしまう。
少し悔しかったけど、今回の雪山を振り返ると、山行以外の普段の生活は山とあまり関係のない別々に考えていましたが、いつでも山を登ることが出来るような装備は勿論、日頃の心身の備えというものを思われる冬山入門登山でした。

新会員の嶋田さんからのコメント
初の雪山体験　厳冬期の雪山を想定して　　スキー場より高い頂へ
黒斑山入門ルートの感想
①無雪期に比べ根っこ、砂利、溝等がなく平らで不明瞭なルートもなく、トレースが付いてる事で道迷いが減少し歩きやすく感じました。
②樹林帯の中は夏とは違う暖かさ、音が楽しめました。
③ブルーとホワイトのコントラスト、澄んだ空気で遠方迄の眺望に感動しました。
④歩いた人にしか見れない夏山とは全く違う山はキレイでした。
⑤下山中を想定した瞬時の滑落停止体勢は非常に難しく、体にくる衝撃は想像以上でした。
⑥ワカンを履いての雪山歩きは最高ですね。もう少し長い距離歩きたかったです。

今回の体験は全ての条件が整った贅沢過ぎる雪山体験でした‼
但し、
①前日の積雪、風雪でトレースがなくなった場合のルートファイティング、ワカン歩行やラッセルでの登山になった場合体力・脚力・気力が相当必要だと改めて感じました。
②樹林帯を抜けて森林限界に入った時の風、耐寒に負けない防寒対策とレイヤリングの重要性
③ブルーのある世界からホワイト一色の吹雪時の待機方法や現在地の把握の知識、経験、天候の判断力が遭難しない条件である
④夏山とは全く違う山を歩く為に、滑落しない為のアイゼン歩行、ピッケルワークの習得は絶対条件である。
⑤冬山装備はとても多く、最悪の遭難を想定して準備する為荷が重くなるので、夏山より自身の技量にあった無理な計画は立てない事が特に重要である。

以上、今回の雪山体験は条件が良すぎた為、気合いを入れて望んだ山行は調子抜けした感じでした。よって今回は雪山体験しましたが、スキー場の延長と感じたのが正直な気持ちです。
雪山の怖さ・難しさを一つでも体験して初めて雪山経験者になるのか?と次のスキルアップの為、別の雪山に行きたくなりました。

まとめ　山口

新会員に冬山体験をさせてあげたいと思い、浅間山に感動し、展望も抜群に良く、雪が結構豊富で、歩く時間も適度、いろいろと教えるにはちょうど良いなーと黒斑山を計画しました。
今回は雪山を始める仲間に基本技術を教えることが目的なので、要所で時間をとり説明と実地をしながらのゆっくり山行。冬山での服装・装備の説明から始まり、アイゼン装着・歩行体験。ピッケルの選び方・使い方、ワカン装着・ラッセル技術、体験と一通りやります。
表コースは適度に展望が良いスポットがあるので、息が切れる前に一息入れられる。初心者に体験してもらうにはお勧めの登りコース。今回は遠くまで澄み渡った青空の下、富士山、八ヶ岳、中央アルプス、御嶽、乗鞍、北アルプス、頚城山塊とまさに絶景が広がっていた。アイゼンを履いた登りも慣れてくる頃に浅間山の大絶景が広がり、トーミの頭への急斜面で入門編としては最終チェック。本当に良いコースだ。
私にとっては百名山で未だ登頂していない 8 座の 1 つ浅間山。早く登山規制が解除されることを祈るのみである。
下山は中コースを利用。こちらは樹林帯で展望はないが、比較的緩やかな下りが続き、慣れないアイゼンを使った下りを体験するには申し分ないルート。しばらく下ると展望が開ける個所で、今度はワカンの説明と実際に装着しての歩行体験。吹き溜まりでのラッセル体験、ピッケルの使い方の体験、最後は駐車場までのなだらかな場所でトレースを外れた吹き溜まりでトレースをつける楽しさ

を体験してもらい、当初予定していた冬山入門登山は終了。
山頂でも例年よりも暖かく、唯一教えられなかったのが雪山の厳しさですが、これは一緒に冬山重ねて味わってもらうしかありません。まず冬山のベストコンディションを知ってもえて良かったです。これを味わうと雪山やめられませんね。

中山道歩きNo.７（群馬八幡駅～磯部駅）

記：兼堀　恵美子

★日　時・・・平成２８年２月２１日（日）　　南越谷駅改札午前６時集合

★参加者・・・Ｌ石井（美）、石井（文）、木原、鎌形、中川、中島、黒沢、上原、兼堀（善）兼堀（恵）、畑野（仁）、平野、阿部、杉山、鈴木（廣）、大畑、鈴木（里）、森（花）　　１８名

★コース

往き　　南越谷６：07＝南浦和＝浦和（高崎線）＝高崎（信越本線）＝群馬八幡　8：25

群馬八幡～板鼻宿～安中宿～磯部

帰り　　磯部 15：10＝高崎＝浦和＝南浦和＝南越谷 17：45

前日雨でしたが、当日は晴れてそれ程寒くなく、快適な街道歩きでした。群馬八幡駅からまず中山道から外れた所にある社八幡宮を見学。あまり手入れをされてないせいか煌びやかさはなく時代を感じる建物でした。八幡宮からまっすぐ行った所に弁慶が文字を書いたと言う鳥居があり、そこから中山道になり街道歩きスタート！！妙義山、浅間山、荒船山等見ながら板鼻宿まで軽快に歩いて行き、次の見学先＜木嶋本陣跡，皇女和宮宿泊場所＞に到着。休日閉館の為外から見学。それから鷹之巣橋下を流れる碓氷川を越えて安中へ・・・武家長屋を見学し、その近くにある＜高嶋屋＞で昼食タイム。多人数の為か料理が出て来るのが遅く予定時間超過。帰りの時間に響いてしまいました。とは言えみんな満腹満足で杉並木を歩き＜新島譲旧宅＞へ着きました。案内人の説明を受けましたが、私の頭の中には新島譲の幼名七五三太（しめた）だけがインプットされました。磯部駅へ向かう途中で日本マラソン＝遠足（とおあし）発祥の地を通りお土産に遠足最中、遠足ポテトや磯部せんべいを買って帰って来ました。また次回の中山道歩きを楽しみに打ち上げをして解散。　　石井夫妻お疲れ様でした。これからもよろしくお願いします。

その季節に美味しい山がある

記：森　律子

。
2016 年 2 月 21 日：L 井口、森り

コースタイム :9:20 加治屋→10:50 南郷山→11:12 自鑑水→11:30 幕山→12:50 湯河原梅林

前から気になっていた山「幕山」ですが、箱根方面の山はなかなか行く機会がなく、今回は宮子さんリーダのもとやっと行くことができました。

今回は南郷山からの縦走山行で前日の春の嵐とは違ってお天気も快晴！バスで加治屋まで行き急な登りを歩きます、途中軒先で珍しい柑橘類を売っていて､「これから登山だからちょっと買えないかなぁ～」と後ろ髪をひかれる思いで山のなかへ突入。
ゴルフ場を横目に緩やかな登山道を順調に歩き南里山山頂へ、海を見ながら山を歩くって贅沢～と思いながら真鶴半島の景色を堪能して、幕山方面を目指します。
途中自艦水を眺めて幕山山頂へ、山頂では、沢山の登山者がいましたが、少し開けた草原なので、いい場所を探して、お昼ご飯を作りました。今回の山ご飯は大好きな「パクチー」たっぷり簡単フォーを作りました。風もなくとても暖かい気候なので、のんびり海の景色を堪能しながら、お昼ご飯を楽しみ、幕山の周遊をして、今回の一番のメインイベント梅の花を見るため梅林方面へ下山しました。

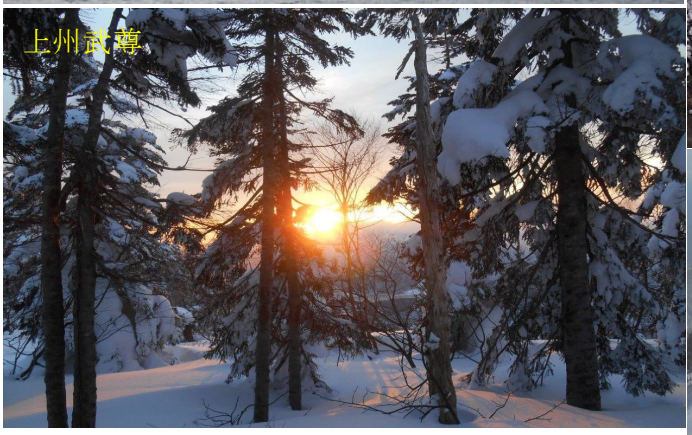
目的の梅林は 5 分咲きでしたが、珍しい「梅ソフト」を食べ、地元でしか買えない珍しい柑橘類を買って心もお腹も大満足な山行でした。

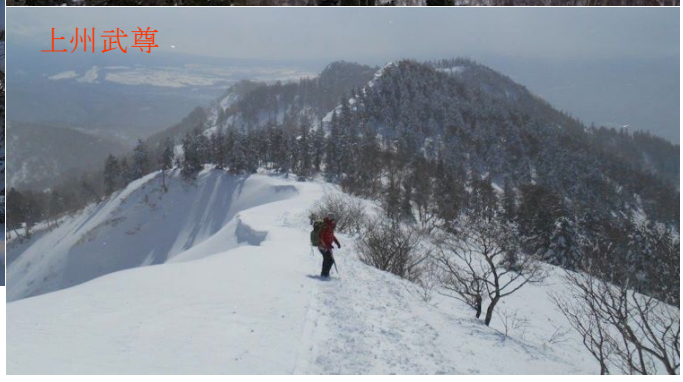
幕山登山口からのバスの本数は普段は 1 日 5 本ですが､梅まつり開催中は臨時バスが出ていてとっても便利でした。登山道はしっかり整備されていて危険個所も無く、天気が良ければ安心して歩けるルートです。

イベントに便乗して美味しい山歩きもいいなぁ～と感じた山行でした。

また、毎年でも行きたい山が一つ増えました。

12～2 月の山行から





編 集 後 記

忙しい日常生活の中、原稿を気持ち良く提出いただいた皆さん、大変ありがとうございました。初心者なので行き届かない点が数多く有ったかと思いますが、なんとかここまで辿り着くことができました。今後も会員の皆様の御協力をお願い申し上げます。　　宮地　敬介